



Happy and Smile

新本幼稚園 <音楽・英語特区>

(園長だより) 令和6年8月28日号

小規模園だからこそその「よさ」とは・・・

6月半ばに、めろん・ばなな組(複式学級)の園内研修会を行いました。小規模園の教育の進め方については、総社市全体でも2年前からワーキンググループでの研修会を行っており、今回は川西地区以外の幼稚園・こども園からも多数の先生方にご参加いただきました。大規模園にも中規模園にもそれぞれのよさがありますが、今回の研修会で先生方が感じた「小規模園だからこそそのよさ」をいくつか紹介します。

幼児の姿

子ども同士それぞれの子のことをよく知っている。異年齢でも互いの名前を呼び合える。

小規模だからこそその友達との関わりの深さがある。

先生に見てもらったり、認めてもらったりすることが多く満足感を味わいやすい。

地域の方に大変親しみを感じていて、互いに自然に話ができる温かい雰囲気がある。

「したい」「やってみたい」と思う遊びに、意欲が高まっている間にくり返し取り組むことができる。

環境構成

十分な数、空間、広さの確保。(遊具、水道、トイレなど)

環境の再構成を子どもと一緒に考えてできる。

5歳児が一人一つのバケツで田植えをすることができる。責任と愛着が生まれる。

子どもの遊びや発展に合わせて、すぐに遊具や用具を移動させたり、自由に使ったりすることができる。

教師の援助

発表の回数や内容の把握など、一人一人に応じた細かい援助ができる。

どこでだれが何をしているかがよく見え、遠くからでも声が掛けられる。

先生が子どもと一緒に、しっかりと遊び込める。

必要なタイミングでの声掛け、援助(待つ、誘うなど)ができる。

☆小規模園の保育を見て、今後自分(参加された先生)がしてみたいと思ったこと

- ・先生が前に出すぎず、友達同士や異年齢同士の関わりがもてるように指導していて、子どもたちの育ち合いがたくさん見られたので、私も大切にしていきたいと改めて思った。
- ・降園時の振り返りで一人一人の思いに寄り添いたい。小規模園だからこそ、自分の思いを伝える場を多くもてるので、伝える喜び、聞いてもらう嬉しさを十分感じさせたい。

今回の研修会で多くの先生方から、小規模園だからこそできることやそのよさをたくさん見つけていただき、改めて小規模園のよさを感じることができました。大変ありがとうございました。